

2016年1月29日

本日ご開帳！世界初の大規模公開
村上隆のスーパーフラット・コレクション
— 蕭白、魯山人からキーファーまで —
2016年1月30日(土)～4月3日(日)



村上隆とスーパーフラット・コレクション 撮影：平尾健太郎

横浜美術館では、2016年1月30日(土)から4月3日(日)まで、現代日本を代表するアーティスト、村上隆(むらかみたかし)(1962年生まれ)の現代美術を中心とするコレクションを初めて大規模に紹介する展覧会「村上隆のスーパーフラット・コレクション—蕭白、魯山人からキーファーまで—」を開催いたします。

村上隆は、東京藝術大学にて日本画初の博士号を取得。現代美術と日本の伝統絵画、ハイカルチャーとポップカルチャー、東洋と西洋を交差させた極めて完成度の高い一連の作品で世界的に評価され、海外の著名な美術館で数々の個展を開催してきました。

アーティストとしての精力的な創作の一方で、村上隆はキュレーター、ギャラリスト、プロデューサーなど多岐にわたる活動も展開しています。特に、近年、独自の眼と美意識で国内外の様々な美術品を積極的に蒐集し続けており、その知られざるコレクションは、現代美術を中心に日本をはじめとするアジアの骨董やヨーロッパのアンティーク、現代陶芸や民俗資料にまで及んでいます。村上隆にとって「スーパーフラット」とは、平面性や装飾性といった造形的な意味のみに限定されるのではなく、時代やジャンル、既存のヒエラルキーから解放された個々の作品の並列性、枠組みを超えた活動そのものを示しており、「芸術とは何か？」という大命題に様々な角度から挑み続ける作家の活動全体(人生)を包括的に表す広範かつ動的な概念と捉えられるでしょう。

圧倒的な物量と多様さを誇るこれら作品群を通して、村上隆の美意識の源泉、さらには芸術と欲望、現代社会における価値成立のメカニズムについて考えるとともに、既存の美術の文脈に問いを投げ掛ける、またとない機会となるでしょう。

展覧会に寄せて

村上隆は東京藝術大学在学中から、欧米の価値観とは異なる日本のアーティストとしてのオリジナリティをどのように構築し、国際的な認知を促すことができるかを考えてきた稀有な存在である。

1993年、東京藝術大学において初めて日本画の博士号を取得した村上は、日本画界ではなく現代美術界へと主軸を移し、90年代後半よりアニメ、漫画、フィギュア、キャラクターなどの日本のサブカルチャーをファインアートに導入して、欧米の既成の美意識や価値を転換させる概念「スーパーフラット」を周到に打ち出した。現代美術と日本の伝統絵画、ハイカルチャーとポップカルチャー、東洋と西洋を横断する極めて完成度の高い作品群によって、村上は美術界に刺激を与え続け、国際的評価を獲得してきたといえよう。

村上は、アーティストとしての精力的な創作活動にとどまらず、批評家、キュレーター、ギャラリスト、プロデューサー、マネージャーとしても実力を発揮してきた。その活動の根底には、美術の枠組みを拡張させる思考や批評、美術の価値を定める思想や制度、マーケットの形成やアーティスト育成に対する彼自身の懐疑と変革への真摯な情熱がある。

全方位の挑戦を続けてきた村上は、近年、コレクターとして作品の蒐集にも心血を注いでいる。私が、村上本人からコレクション展開催の打診を受けたのは2014年であった。その膨大な数と多様性に圧倒されたが、彼の美術界での歩みや価値観を示唆するその内容は強烈で魅力的であった。すでに予定されていた森美術館での個展と会期が重なるように急遽、調整し、一筋縄ではいかない準備を想定して、三木あき子さんにゲストキュレーターを依頼しつつ横浜美術館の学芸チームを組むこととした。

村上が本格的に「蒐集」という樹海に入り込んだのは、北大路魯山人旧蔵の志野茶碗の入手を契機とする。古美術商との駆け引き、オークションでの落札、ギャラリーやインターネットでの購入など、蒐集手法は多岐にわたるが、10年足らずで数千点の蒐集を実現したそのエネルギーと収集の内容は、村上の非凡さを示して余りある。

「芸術とは何か?」「芸術の価値とはどのように成立するのか?」「蒐集とは何か?」この大命題に向き合い模索を続ける村上にとって、蒐集は彼の新たな挑戦であり、自己の限界を常に超えようとする意思の発露でもあるのだ。

横浜美術館でのコレクション展が決まった以降も、村上の蒐集はとどまることなく、展覧会出品リストは、集荷の時点でも常に書き換えられた。

本展は、美術をめぐる制度や課題に鋭敏に反応してきた村上が表現する「もうひとつの個展」なのである。

2016年1月

横浜美術館 館長
逢坂恵理子

■展覧会の構成

村上隆の「スーパーフラット」とは、平面性や装飾性といった造形的な意味のみに限定されるのではなく、時代やジャンル、既存のヒエラルキーから解放された作品の並列性、枠組みを超えた活動そのものを示しており、「芸術とは何か？」という大命題に様々な角度から挑み続ける作家の活動全体（人生）を包括的に表す広範かつ動的な概念と捉えられます。

本展は、そうした彼の実験的活動をコレクションという側面から検証するものです。村上隆の独自の眼と美意識で蒐集されたコレクション群は、国内外の現代美術や、日本の古美術、日本、アジアの骨董、ヨーロッパのアンティーク、現代生活陶芸や民俗資料など、現在約五千点を数え、圧倒的な物量と多様さを誇ります。

ここでは、その一部を厳選して紹介しています。「彫刻の庭」、「日本・用・美」、「スタディールーム&ファクトリー」、「村上隆の脳内世界」、「1950-2015」という5つの空間構成を通して、作家の美意識の源泉やコレクション行為の持つ意味、芸術と価値、また政治、経済、社会との関係等について広く考えます。

(三木あき子/ゲストキュレーター)

彫刻の庭 Sculpture Garden

美術館エントランスの大空間、グランドギャラリーや上階の回廊周辺では、個人コレクションの枠を超えた、サイズ、価格的にも「限界への挑戦」といえるような壮大なスケールの彫刻、インスタレーション作品が観客を迎えます。飛行機の残骸等を使ったアンゼラム・キーファーの彫刻や、牛の革で出来た巨大な生物の遺骸のような張洄（ジャン・ホアン）の彫刻からは、敗戦、資本主義と社会主義、帝国主義、イデオロギー、歴史と芸術等に関する複雑な関心が読み取れます。一方、人を食ったようなユーモアを感じさせるマウリツィオ・カテランの盗難金庫や、反対にサイズが小さ過ぎて乗ることの出来ないエレベーター等は、美術作品の意味や価値の錬金術、さらには価値の定まらないものに金銭を出すという人間の行為について問いを投げ掛けるかのようです。また、コレクションの中には、共に国際的に活躍し、親交も深い李禹煥（リ・ウーファン）や奈良美智らの作品や、青島千穂らカイカイキキ所属のアーティストの作品も含まれます。

日本・用・美 Japan/ Utility/ Beauty

村上隆のコレクションの中でも、質量において群を抜いているのが、陶磁器の作品群です。それらは各時代、各地域の文化風土や人々の美意識を象徴する日常の中の造形物であるとともに、時代を超えて再発見され価値づけされた歴史的背景を持つ美術品でもあります。縄文土器から12世紀に勃興してくる地方窯の古陶、桃山期の作と推定される鼠志野茶碗などの茶陶、北大路魯山人などの陶磁器、朝鮮や中国の古窯の陶磁器や生活雑器、さらには、ヨーロッパのスリップウェアなど、実に幅広い内容を誇ります。

ここでは、こうした陶磁器に加えて、日本美術の奇想の系譜に位置付けられる曾我蕭白や白隠慧鶴ら江戸中期の絵画や豊臣秀吉の消息などの史料を通して、日本美の淵源、日本人の美意識の根源に向けられた村上隆の眼差しをたどります。

スタディールーム&ファクトリー Study Room & Factory

デイヴィッド・シュリグリーのインスタレーションは、人体デッサン教室です。ここでは、展覧会期間中に訪れた観客が、室内中央に立つ人体モデル彫刻のデッサンを自由に描き、部屋の壁面に展示していきます。一方、工場で真珠の選別作業に従事するアジア人の女性たちと、オフィスで一人意味のない労働を行う白人女性の姿を対比させた映像と大量の真珠のオブジェ等が組み合わされたミカ・ロッテンバーグのインスタレーションは、昨年のヴェネチア・ビエンナーレにも出品されたものです。その横には、アメリカでレストランの客が食事の中に見つけ、その後オークションで高額で落札された真珠も展示され、美術教育や価値の創造（あるいは捏造）、価値の成立のメカニズム、労働と対価等について考えることを促されます。

村上隆の脳内世界 The World Inside Takashi Murakami's Brain

この部屋では、現代陶芸品から木彫りの仏像、福助人形、ポリビアの儀礼用木杯、ネパールのお経、13-17世紀の模様タイル、行者の装束、ズルー族の革スカート、李朝の木靴、昭和期のボロ布、三ツ矢サイダーのグラス、巨大な人体彫刻にグラフィティ絵画、アンティーク家具にビアマグ、そしてペタンク（フランス発祥の球技）の玉まで……、ありとあらゆるものが等価かつカオティックに混在し、まるで展示室全体がひとつのインスタレーション作品のようです。この「玉石混交」かつ「ノーロジック」な、村上隆の宝箱、あるいはおもちゃ箱をひっくり返したような空間世界は、村上隆の脳内を覗くかのごとく不思議な体験に観る者を誘います。

1950-2015

ここでは、村上隆のコレクションの主要な柱である1950年代から現在までの国内外のアート作品が、制作年に沿ってほぼ機械的に並べられています。戦後のこの時間枠は、また1962年生まれの村上自身の生きてきた時間とも重なります。若き日の村上のスターだったダグ・アンド・マイク・スターンの写真、自画像の重要性を再認識したホルスト・ヤンセンのドローイング、展覧会を見て現代アートの世界に入ることを決めた大竹伸朗の作品からアンディ・ウォーホルの小品や学生時代に主流だったニュー・ペインティング系の絵画。また、菊畑茂久馬、中村一美、荒木経惟ら日本美術史に独自の足跡を残した作家たちの作品やヘンリー・ダーガーに代表されるアウトサイダー・アートの系譜、アート界のキーパーソンやスティーブ・ジョブズらを写した写真。たわいない日常の言葉やFedexなど流通そのものを芸術作品化した近年の若手の作品に、自身のギャラリーで紹介する国内外のアーティストたちの作品等々…。村上自身が「ノスタルジー」と呼ぶ、様々な影響を受けた美術体験史的な流れや主流とは一線を画し、独自の領域を切り開いてきた開拓者や時代を作った人々へのリスペクト、変容する美の基準、芸術の真髄の模索、さらには既存の美術史とは異なる村上独自の美術の文脈といった様々な関心が見てとれます。

村上 隆(むらかみ たかし、1962 年、東京生まれ)

東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。日本画において初の博士号を取得。制作工房、ギャラリー等を含めたアートの総合商社である有限会社カイカイキキ代表。2008 年には『タイム』誌が選ぶ「世界で最も影響力のある 100 人」に選出される。ルイ・ヴィトン、VANS、シュウ ウエムラ、六本木ヒルズ等の企業ブランディングのプロジェクトや、カニエ・ウェスト、ファレル・ウィリアムス、ゆず等、ミュージシャンとのコラボレーションでも知られる。近年は映画、映像制作も手掛け、2013 年には初の実写映画監督作品「めめめのくらげ」を公開。TV アニメシリーズ『6 HP』(Six Hearts Princess) の公開も控えている。

■基本情報

展覧会名	村上隆のスーパーフラット・コレクション 一蕭白、魯山人からキーファーまで一
会期	2016 年 1 月 30 日 (土) ~ 4 月 3 日 (日)
休館日	木曜日 *但し 2016 年 2 月 11 日 (木・祝) は開館
開館時間	10:00~18:00 (入館は 17:30 まで)
主催	横浜美術館 (公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)、日本経済新聞社
後援	横浜市
協力	みなとみらい線、横浜ケーブルビジョン、FM ヨコハマ、首都高速道路株式会社
企画・監修	村上隆
展覧会キュレーター	三木あき子 (ゲストキュレーター) 柏木智雄、松永真太郎 (横浜美術館)
観覧料	一般 1,500 円、大学・高校生 900 円、中学生 400 円、小学生以下無料 65 歳以上 1,400 円 (要証明書、美術館券売所でのみ対応)

■関連イベント

1、村上隆トークイベント

日時 2016年1月30日(土) 14時~16時
登壇者 村上隆(アーティスト)
聞き手 逢坂恵理子(横浜美術館館長)、三木あき子(本展ゲストキュレーター)
参加費 無料
会場 横浜美術館レクチャーホール

*受付終了。記録映像を後日、展覧会公式サイトにて公開します。

2、学芸員によるギャラリートーク

日時 2016年2月12日(金)、26日(金)、3月11日(金)、25日(金)
いずれも15時~15時30分
会場 村上隆のスーパーフラット・コレクション展展示室
参加費 無料(事前申込不要、当日有効の本展観覧券が必要)

3、夜の美術館でアートクルーズ

閉館後の美術館で、学芸員の解説つきで展覧会をゆったり鑑賞できる人気プログラム。

日時 ①2016年2月20日(土) ②2016年3月9日(水)
*①②は同内容 いずれも19時~21時
会場 村上隆のスーパーフラット・コレクション展展示室
参加費 3,000円
対象・定員 18歳以上・各回30名(抽選)
応募締切 ①2016年1月21日(木) *受付終了 ②2016年2月11日(木)

■展覧会カタログ

書名 「スーパーフラット・コレクション」
発行予定日 2016年3月25日(予定)
発行元 有限会社カイカイキキ
判型 A4変型判
価格 3,456円(税込)
[対談・インタビュー]
デイヴィッド・ウォルシュ(ミュージアム・オブ・オールド・アンド・ニューアート)
×村上隆
[エッセイ] 三木あき子(ゲストキュレーター)
柏木智雄(横浜美術館 主席学芸員)

■関連展覧会情報

村上隆の五百羅漢図展

日本では14年ぶり、待望の村上隆の大規模個展。世界の絵画史上最大級の作品となる、全長100メートルに及ぶ超大作《五百羅漢図》を中心に、現代美術史への新たな挑戦となる新作の数々を紹介。円熟期を迎え、早大なスケールで展開される村上隆の芸術世界に迫ります。

会期 2015年10月31日(土)～2016年3月6日(日)

休館日 会期中無休

開館時間 10:00～22:00(火曜は10:00～17:00、入館は閉館の30分前まで)

会場 森美術館(港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ 森タワー53F)

主催 森美術館、朝日新聞社、NHKプロモーション

相互割引

横浜美術館「村上隆のスーパーフラット・コレクション」展のチケットを森美術館「村上隆の五百羅漢図展」発券所にお持ちいただくと、一般当日料金が200円引になります。

また、「村上隆の五百羅漢図展」チケットを、「村上隆のスーパーフラット・コレクション」展券売所にお持ちいただくと、一般当日料金が200円引になります。



お問合せ

「村上隆の五百羅漢図展」広報事務局

担当 : 竹田、安田、松浦

E-mail : murakamitakshiten@itgr.co.jp

村上 隆 《五百羅漢図》(部分) 2012年

アクリル、キャンバス、板にマウント

302 x 10,000 cm 個人蔵

©2012 Takashi Murakami/Kaikai Kiki Co., Ltd.

All Rights Reserved.

プレスリリースお問合せ

横浜美術館 広報担当 宮野律子、藤井聡子、窪田知恵

Tel.045-221-0319 Fax.045-221-0317 E-mail: pr-yma@yaf.or.jp